

## 習い事の現状

### 習い事をしている人が多数派、1人あたりの平均は1.9個

今や子どもたちのライフスタイルを語るには欠かせない、といった感のある習い事だが、「習い事をしている」割合は全体では64.9%。男女差はほとんどないが、学年が上がるにつれて「している」割合は増え、年少児が36.2%、小2生では84.8%が習い事をしてきた。また、一人あたりにすると1.9個の習い事をしていることになり、男女ともこの数値で差は出なかった。一方、学年が上がると「している」数も増え、年少児が約1.5個、小2生が約2.3個であった。

### スイミングスクール・楽器・通信教育・スポーツクラブ・英会話が上位

では実際にどのような習い事をしているのかを示したのが図2-17だが、「スイミングスクール」37.7%が第1位であった。「第2章7. 将来像への期待」(60ページ参照)でみたように、親はまず何をしておいても子どもの「健康」を願っていた。このことと、「体力づくり」ができる「スイミングスクール」が第

1位になったことは呼応している。

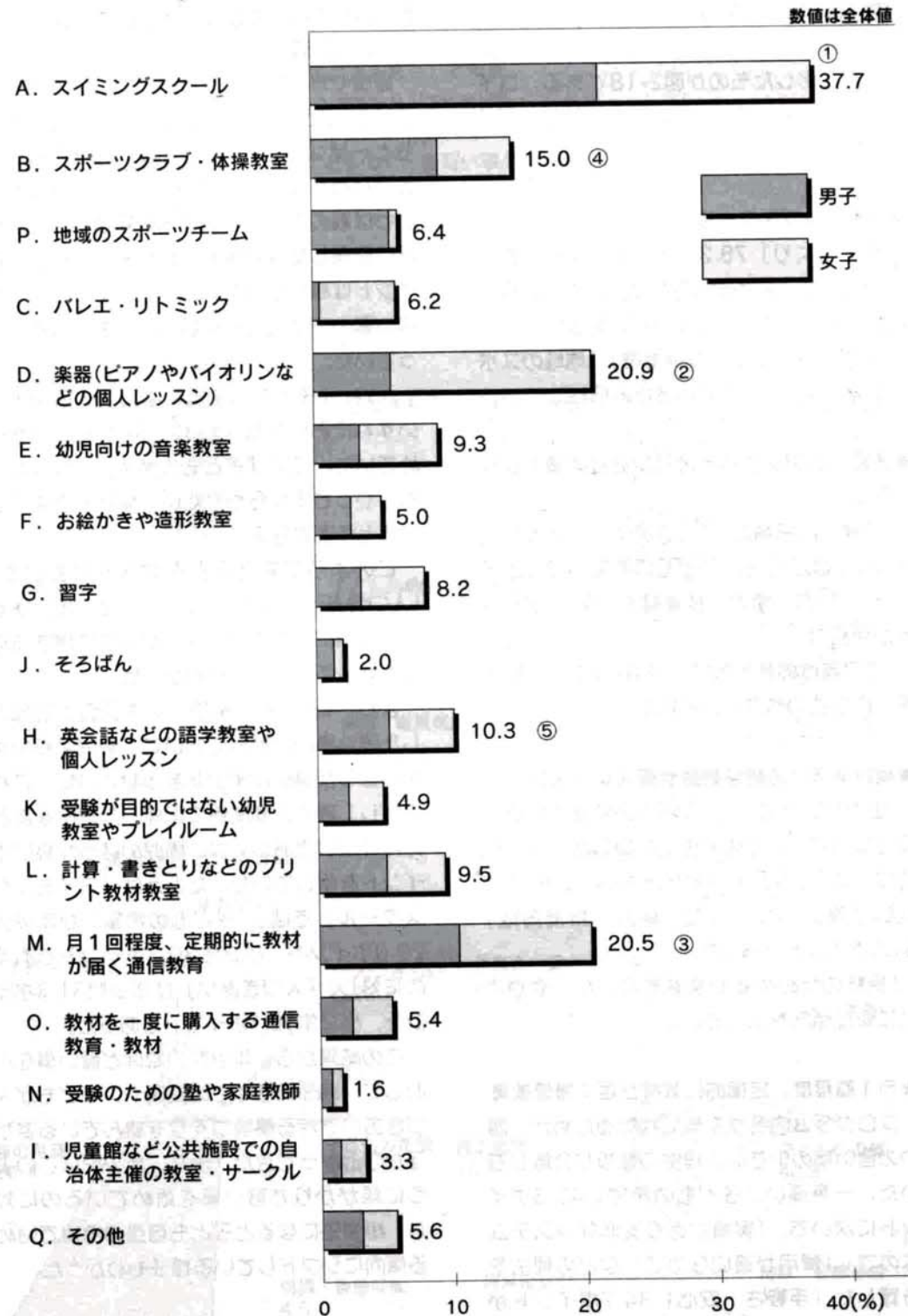
なお1歳~5歳児をもつ母親を対象にした一昨年度の調査では、母親が幼少時にしていた習い事で一番多かったものは「習字」65.6%で、「スイミングスクール」は第9位10.4%であった(「幼児の子育て・教育観調査」ベネッセ子育て研究所1996年)。このときの母親の平均年齢は約32歳ということ踏まえると、「スイミングスクール」に園児や小学校低学年の子どもたちがこれだけ多く通うようになったのは、ここ約20年間の変化である。

下の表2-7は、各属性別の、している習い事の上位5位である。ここでは男女差が認められ、男子は「スイミングスクール」「スポーツクラブ」「スポーツチーム」といった運動系、女子は「楽器」「バレエ・リトミック」といった音楽系の習い事をしている子どもが多い。学年別では、小1生から第4位に「習字」が登場している。これは小学校に上がると、授業での硬筆や書き初めの宿題などがあることから、より「実用的」なものが好まれているという表れであろう。

●表2-7 現在している習い事×性・学年 (%)

順位	全体	男子	女子	年少児	年中児	年長児	小1生	小2生
1	スイミングスクール 37.7	スイミングスクール 43.0	スイミングスクール 32.4	スイミングスクール 34.5	スイミングスクール 35.5	スイミングスクール 37.1	スイミングスクール 40.0	スイミングスクール 40.8
2	楽器の個人レッスン 20.9	月1回教材が届く通信教育 21.0	楽器の個人レッスン 30.3	月1回教材が届く通信教育 27.4	スポーツクラブ・体操教室 19.8	楽器の個人レッスン 22.8	楽器の個人レッスン 25.2	楽器の個人レッスン 29.8
3	月1回教材が届く通信教育 20.5	スポーツクラブ・体操教室 18.9	月1回教材が届く通信教育 20.1	スポーツクラブ・体操教室 14.7	月1回教材が届く通信教育 14.7	スポーツクラブ・体操教室 21.9	月1回教材が届く通信教育 23.7	月1回教材が届く通信教育 21.8
4	スポーツクラブ・体操教室 15.0	楽器の個人レッスン 11.6	幼児向けの音楽教室 11.8	バレエ・リトミック 8.9	楽器の個人レッスン 13.9	月1回教材が届く通信教育 17.5	習字 13.7	習字 15.9
5	英会話などの語学教室や個人レッスン 10.3	地域のスポーツチーム 11.5	バレエ・リトミック 11.5	教材を一度に購入する通信教育・教材 7.7	幼児向けの音楽教室 12.2	幼児向けの音楽教室 英会話などの語学教室や個人レッスン 9.9	計算・書きとりプリント教材教室 12.9	計算・書きとりプリント教材教室 14.9

●図2-17 現在している習い事×各習い事をしている子の男女比率



※本調査では、習い事の状況に偏りがないように、64・65ページ、および68ページの「習い事にかかる月額費用」では、弊社の通信教育の会員ではない一般の回答者の集計結果を用いた。



### 習い事を始める理由

主な習い事別に、その始めた理由を8分類し、図式化したものが図2-18である。以下のように、習い事の内容によって特徴が表れていた。

#### ★スイミングスクール

「体力づくり」78.3ポイントが突出して第1位の理由にあげられており、小学生よりも園児のほうがこの傾向は顕著であった。

「スポーツクラブ・体操教室」「地域のスポーツチーム」にもこの特徴がみられた。

#### ★楽器（ピアノやバイオリンなどの個人レッスン）

「情操・音感育成」73.0ポイントが最も高かった。ほかにも、「子どもの希望」43.5ポイント、「知力・能力・技能育成」41.4ポイントが目立つ。

「幼児向けの音楽教室」「お絵かきや造形教室」にもこの傾向がみられた。

#### ★英会話などの語学教室や個人レッスン

「国際化時代のため」「将来の勉強や仕事に役立つので」などの理由を分類した「将来役立つ」の72.5ポイントが最も高い。それに次いで高いのが「知力・能力・技能育成」51.5ポイントであった。

「受験のための塾や家庭教師」が、ややこれに似た傾向を示していた。

#### ★月1回程度、定期的に教材が届く通信教育

プログラム内容が多岐にわたるためか、四つの習い事の中では、理由の種類が分散していた。一番高い「子どもの希望」40.3ポイントに次いで、「実績があり安心なシステムなので」「費用が適切なので」などの理由を分類した「手軽さ・安心」34.7ポイントが高くなっている。

「計算・書きとりなどのプリント教材教室」にもこの特徴がみられた。

### 習い事を始める理由に共通している

#### 「人づきあい」

理由を8分類したうちの一つ「人づきあい」とは、「子どもの友だちづくりのため」「友だちと一緒に」「自分（親）の友だちと出会うため」「親子で楽しみたいから」という、いわば親の立場から子どもや親自身の人間関係に配慮した理由をまとめたものである。ポイントは高くないものの、右にあげた四つの習い事のいずれにも共通した理由としてあがっていた。

一方、「子どもの希望」は四つの習い事のいずれにおいても、約30~40ポイントを占めていた。この「子どもの希望」には「友だちがやってるからやりたい」場合も含まれていると予測できる。

このように親と子どもの双方において、「人づきあい」「友だちづくり」は、習い事を始める際に、上位ではないが必ず登場する理由となっていることがわかった。

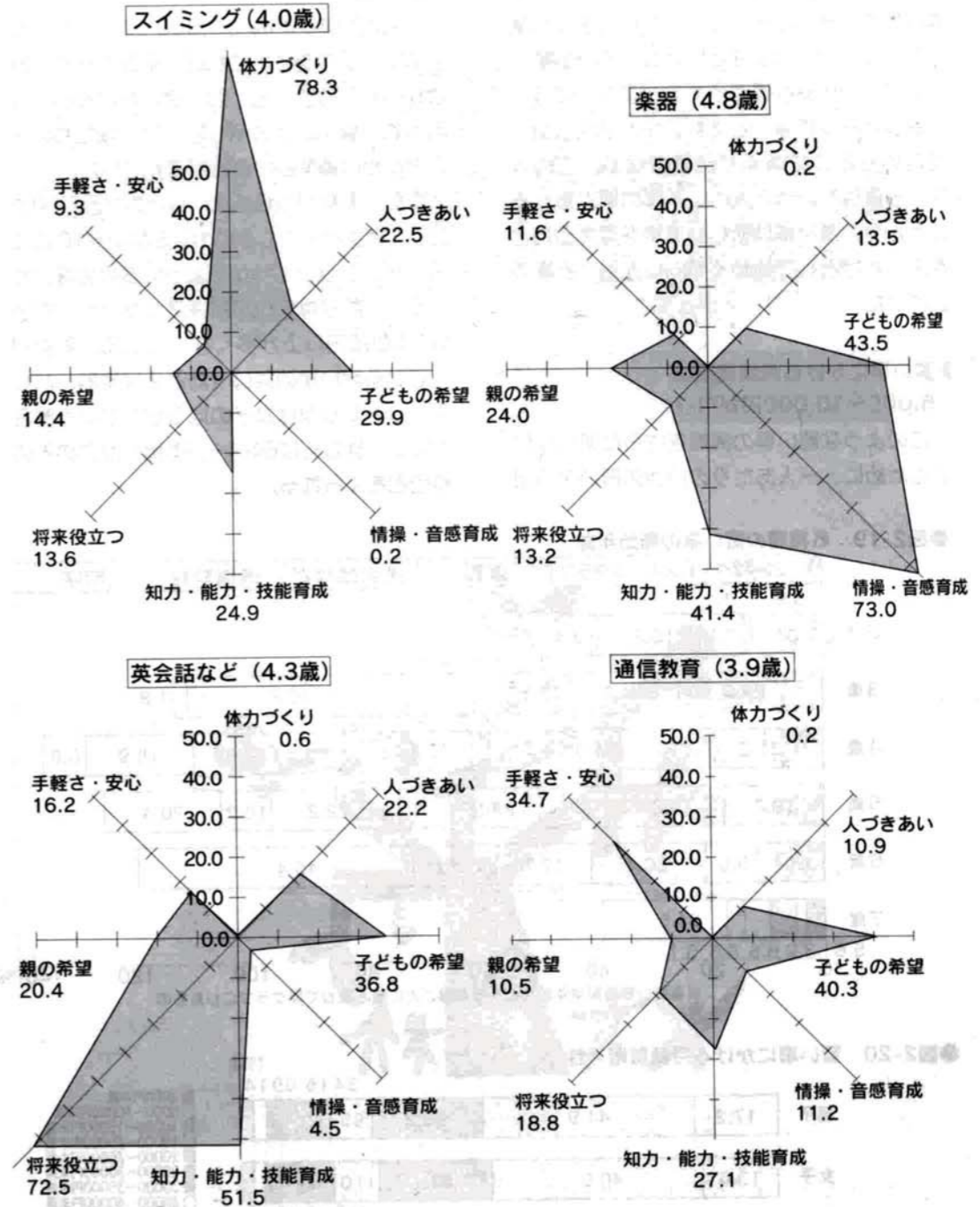
また、「子どもの希望」は本調査で対象とした習い事の大部分において、園児より小学生のほうが高いポイントを示していた。これに対し、親の人間関係に配慮した理由をまとめた「人づきあい」は、園児のほうが高いポイントを示していた。たとえば「スイミングスクール」では、「子どもの希望」が年少児20.0ポイント、小2生30.3ポイントであるのに対し、「人づきあい」は年少児31.3ポイント、小2生18.1ポイントであった。

この結果から、年少児の親ほど習い事とおして、親子そろっての交流や、子どもが人づきあいできる環境づくりを望んでいる姿が浮かび上がってきた。また、年少児はどのように親がかりで習い事を始めているのに対し、小学生になると子ども自身の希望で始める傾向にシフトしている様子もわかった。

●図2-18 習い事を始めた理由の特徴パターン

下の図は、各習い事を始めた理由を八つの視点から分類し、それぞれの習い事の特徴を図式化したものである。作成は、以下のように行った。

- 調査票では具体的な理由を27個の選択肢として用意
- 具体的な理由の27項目を、その内容から八つに分類
- 各分類ごとにその分類に属する具体的な理由のパーセントをポイントとして加算し、図式化
- 開始理由は開始年齢とも関連があるので、各習い事の平均開始年齢を、( ) 内に示した



※66・67ページではパーセントの代わりに、ポイントで数値を示している。



●入園・入学時が習い事開始のピーク

図2-19は、「している」割合が高かった「スイミングスクール」「スポーツクラブ」「楽器」「英会話など」「月1回の通信教育」「習字」の六つの習い事について、それぞれの開始年齢ごとの割合を示したものである。

習い事を始める子どもの割合が最も高いのは4歳で、その前後の3歳・5歳も多い結果となっていた。習字を除いた五つの習い事においてこの傾向は顕著である。また、6歳も小さなピークになっており、今度は逆に習字を含めるとこの傾向が顕著になる。この4歳・6歳はちょうど入園・入学の頃と重なることから、習い事は新しい環境を迎えることをきっかけとして始める傾向にあることを表していた。

●習い事にかかる月額費用は5,000~10,000円が中心

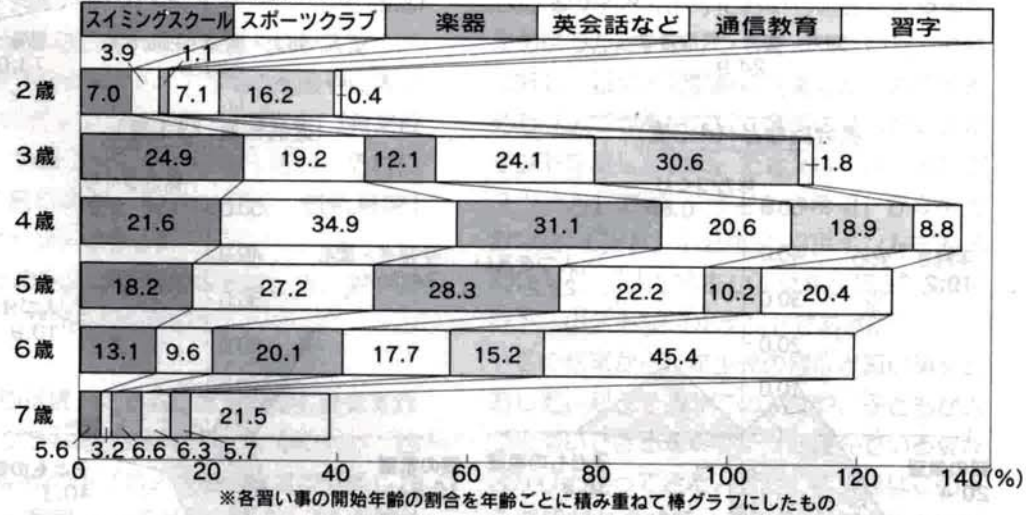
このような習い事の実態をさらに明らかにするために、一人あたりの月額習い事費用

(園や学校にかかる費用を除く)についてもたずねてみた。その結果、全体では5,000~10,000円が40.8%と最も多かった。

習い事の費用は世帯年収にも関連しており、年収が高くなるほど10,000円以上の割合も高くなっていった。しかしながら年収が2,000万円未満の家庭では、どの年収層においても習い事の月額が5,000~10,000円が中心ゾーンである。これは、家計に占める割合が高くなるろうとも、習い事にかかる費用は削っていないことも示しており、親たちの子どもにかかる期待の高さが表れていた。

また、男女別の結果を示したのが図2-20である。男女とも最も多いのは5,000~10,000円だが、グラフでわかるように多少の違いがあった。男子は5,000円未満が多いが、女子は10,000円以上が多くなっている。男女がしている習い事の違い(たとえば楽器、バレエ・リトミックは女子のほうがしている割合が高い。詳しくは64ページ参照)がこの差の原因と考えられる。

●図2-19 6種類の習い事の開始年齢



●図2-20 習い事にかかる月額費用×性

